

台風や大雨の時の避難行動



地震が発生した！



土砂災害ハザードマップは、梅雨期の集中豪雨や台風に伴う豪雨などにより、土石流やがけ崩れなどが発生した場合に被害を受けおそれのある区域を土砂災害警戒区域等として示し、土砂災害が予想される場合や発生した場合に、住民のみなさんが避難などの必要な行動をとっていただくために作成したものです。

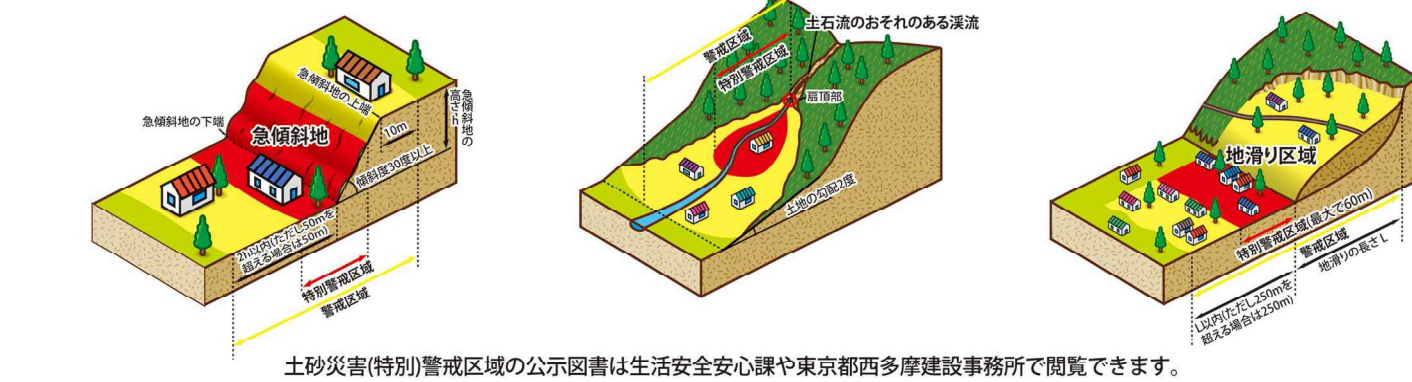
日ごろからご家族や地域の方と話し合っておいていただき、土砂災害による被害の軽減にお役立てください。

土砂災害防止法とは、土砂災害から国民の生命を守るため、土砂災害のおそれのある区域について危険の周知、警戒避難態勢の整備、宅等の新規立地の抑制、既存住宅の移転促進等のソフト対策を推進しようとするものです。

※正式名称「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」

土砂災害は毎年度より全国どこでも発生しており、私たちの暮らしに大きな影響を与えています。また、その一方で、新たな土地開発が進み、それに伴って土砂災害の発生するおそれのある危険な箇所も年々増加し続けています。そのような全ての危険箇所を対策工事に伴って完全に防護するには、膨大な期間と費用が必要となります。そのような災害から人命や財産を守るため、土砂災害防止工事のハード対策と併せて、危険のある区域を明らかにし、その中で避難場所の整備や危険箇所の新規住宅等の立地規制等のソフト対策を充実させていくことが大切です。

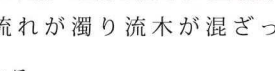
土砂災害警戒区域(イエローゾーン) 急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。	土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン) 急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が設けられます。
---	---



土石流とは

山腹、川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へ押し流される現象。

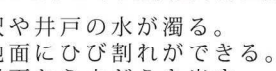
- ・急に川の流れが濁り流木が混ざっている。
- ・山鳴りがする。
- ・雨が降り続けているのに川の水位が下がる。



地すべりとは

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象。

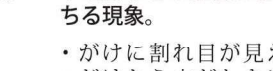
- ・泥や汗の雨が溜まる。
- ・地面にひび割れができる。
- ・斜面から水が湧き出す。



がけ崩れとは

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、や地震などの影響によって急激に斜面が崩れる現象。

- ・がけに割れ目が見える。
- ・がけから水が湧き出る。
- ・がけから小石がぼらぼらと落ちてくる。



ここに紹介した現象が、土砂災害発生の前兆現象の全てではなく、また、これらの現象が見られなくても土砂災害が発生する場合もあります。

気象庁は、大雨や強風などの気象現象によって**災害が起こるおそれのあるときに「注意報」**を、**重大な災害が起こるおそれのあるときに「警報」**を発表して、注意や警戒を呼びかけます。

- * 日の出時は「多摩西部」地域となります。
- * 土壌雨量指数とは、降った雨が土壌中に水分量としてどれだけ貯まっているかを気象庁が指数化したものです。
- * 流域雨量指数とは、河川の流域に降った雨水が、どれだけ下流の地域に影響を与えるかを気象庁が指数化したものです。
- * 土砂災害警戒情報……大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、土砂災害発生の危険度が非常に高まったときに、市町村長避難勧告等の災害応急対応を適時適切に行えるよう、また、住民の自主避難の判断の参考となるよう、対象となる気象庁を特して都道府県と市町村が共同で連携し提供します。

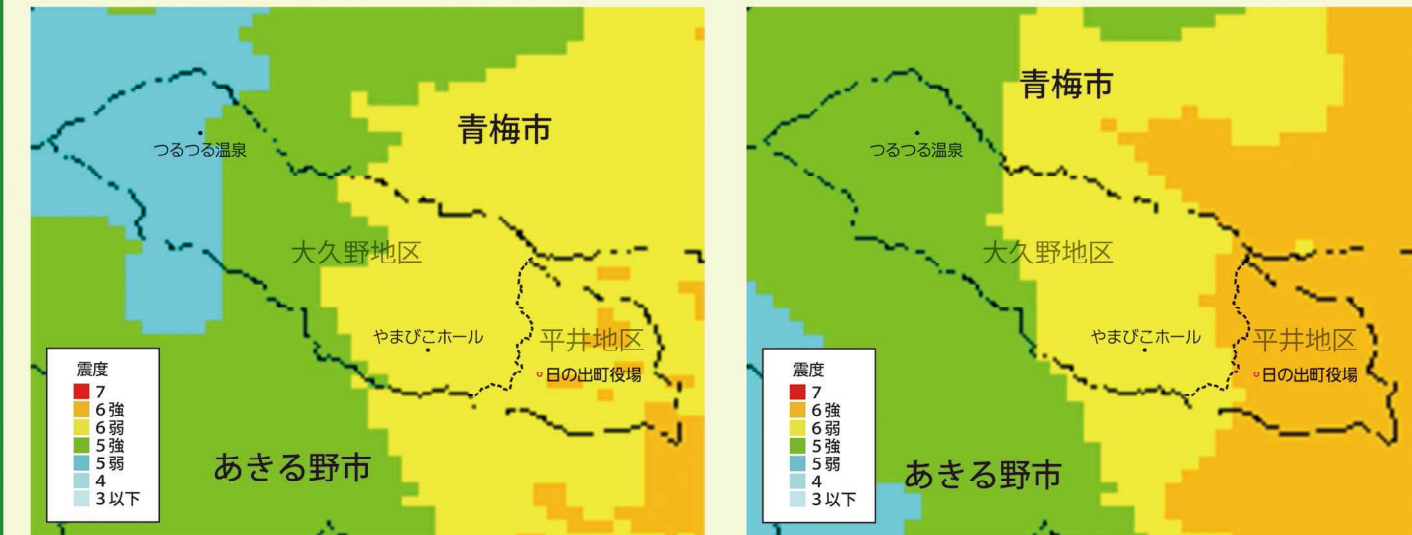
雨の降り方で、だいたいの雨量を知ることができます。 危険な状態になる前に、自急で判断して避難ができるように、降り方と雨量の関係を覚えておきましょう。	やや強い雨 1時間に10～20mmの雨 雨の音がよく聞こえ、地面一面に水溜まりができます。 雨が長引く場合には、注意が必要です。 	強い雨 1時間に20～30mmの雨 どしゃ降りや雨傘をさしても濡れてしまうほどの雨です。下水道があふれ、またたけが崩れる心配もあります。 
--	---	--



被害想定への見直し

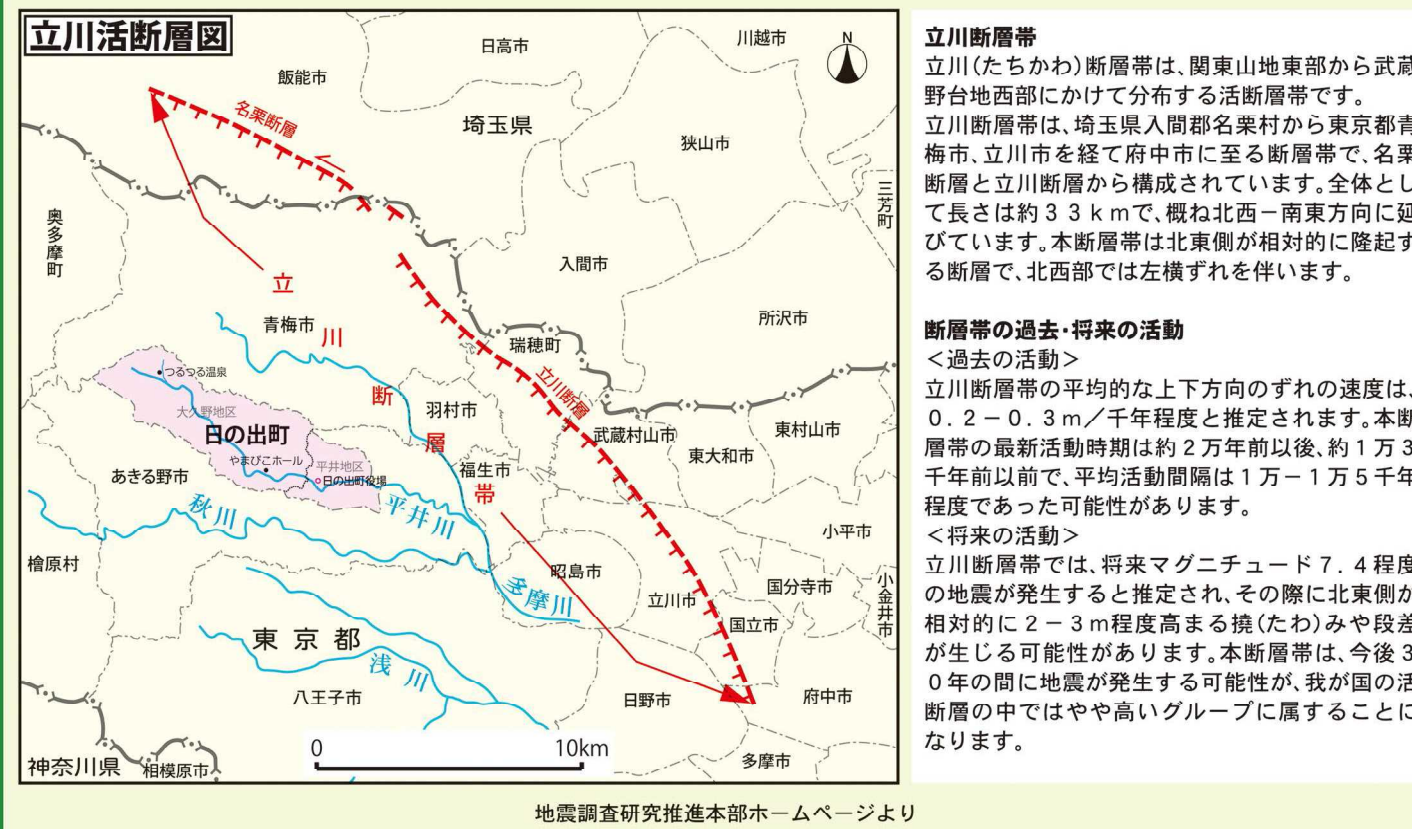
平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、従来の災害の概念に収まらない未曾有の大災害で、東北から関東地方に至る東日本の太平洋岸全体にわたる広範な範囲に甚大な被害がもたらされ、都内においても、液状化や大量の帰宅困難者といった被害が生じた。

こうしたことから、都は、東日本大震災の経験を踏まえ、首都直下地震など東京を襲う大規模地震に対してより確かな備えを講じていくため、平成18年5月に公表した「首都直下地震による東京の被害想定」を見直すこととし、東京都防災会議地震部会（部会長：平田 直 東京大学地震研究所教授）において検討を行った。



多摩直下地震の震動分布
フィリピン海プレートの上の深度が浅くなったため、前回調査結果で、多摩地区はほとんど6級の震度であったが、今回の想定では6級が主体となっている。具体的には、震度の7の域が若干見られ、震度6の面積は(前回調査結果(平成18年5月)の約21km²に比べ約459km²と増えている。

立川断層帯周辺の地震動分布
立川断層帯周辺の震源層層モデルは、地震調査研究推進本部地震調査委員会(2009)で設定された破壊開始点が側面にある場合として採用している。地震震度は立川市を中心に震度7も予測されており、震度の7の面積は約24km²、震度6の面積は約318km²である。なお、破壊開始点が北側にある場合も参考として地震震度を想定している。



- **正確な情報収集と自主的避難を**
テレビ・ラジオ・インターネットなどで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の状況や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。
- **避難の呼びかけに注意**
危険がせまったときには、町役場、警察署、消防署、消防団から、防災行政無線や広報車などにより、避難の呼びかけを行います。呼びかけがあった場合には、速やかに避難してください。
- **要配慮者の避難にご協力を**
高齢者・障がい者・病気やけがをしている方は、早めの避難が必要です。身近所の要配慮者の避難にご協力ください。



自動車での避難は緊急車両の妨げになります。また、交通渋滞をまねき、浸水すると動けなくなりますので、特別の場合を除きやめましょう。

避難するときは、自主防災組織内で声をかけ合って避難しましょう。また、水面下では道路や側溝などの境目がわかりにくいので、杖などで安全を確認しながら歩きましょう。

日頃からどこが危険か、避難場所はどこか、確認しておきましょう。外出する際には、逃げ地に近づかないようにしましょう。



<情報の伝達経路>

気象庁 気象情報
 ・大雨洪水注意報・大雨洪水警報
 ・土砂災害警戒情報・特別警報

東京都 水防情報
 ・水位情報・雨量
 ・土砂災害警戒情報

国土交通省 河川情報
 ・水位情報・雨量

日の出町
 TEL 042-597-0511 (代表)

**報道機関
テレビ・ラジオ**

無線 防災行政

広報車

自治会

防災メルマガ

**警察署
消防団
駐在所**

**町民の皆さん、
学校、
事業所等へ
情報をお届けします。**

いざという時にすばやく避難できるように、非常用品を防災袋に入れて常備しましょう。避難先で困らないように、眼鏡や持病の薬など、自分には必要で、入手が簡単ではないものを用意しておくことが大切です。特に寒冷期は防寒用品を忘れずに。

□ ラジオ AM・FM両方聴けるものが便利。 ライト付きや録音式もあり。 予備の電池も用意する。	□ 救急薬品 絆創膏、包帯、傷薬、鎮痛剤、胃腸薬。 持病のある人は常備薬も忘れずに。
□ 貴重品 現金（公衆電話用10円硬貨もあると便利） 通帳、証書類、免許証、印鑑、 身分証明書など。	□ 懐中電灯 でできれば一人に一個。 予備の電池も忘れずに。

※非常食品の賞味期限や電池の液もれがないかなど、防災用品は定期的に点検しましょう。

わが家の避難場所	緊急時の連絡先
家族などの連絡先	

災害から身を守るには、住んでいる地域周辺がどんな土地なのか知っておく必要があります。とくに造成地や山岳地帯などに住む場合、状況に応じて速やかに避難することが大切です。

また、近年短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨(ゲリラ豪雨)による災害が増えています。ふだんから気象情報に注意しましょう。

【事前に調べておきましょう】

- ・目の山町ホームページ<http://www.town.hinode.tokyo.jp/>に掲載

【町からの情報提供】

- ・防災行政無線

災害発生時にサイレンや避難勧告などを放送（通常は防災、防犯等の情報および焼け小焼けを放送しています）

① 日の出庫お知らせメール 登録方法のご案内

登録の前に

「日の出庫メール」にて、メール配信サービスの利用規約に同意した上で登録を行います。

また、携帯電話を登録メール対応の設定をされている場合は、次の2つの設定を行ってご登録をお願いいたします。

- town.hinode.tokyo.jpドメインからのメールの受信を許可する
- URL付きメールの受信を許可する

※携帯電話の対応をされていない場合でも、手順②で仮登録完了のお知らせメールが届かない場合は上の2つの設定をお願いします。

登録などの操作にお困りの方は、コールセンターをご利用ください。
オペレーターがご案内いたします。

090 1 20 6 79 7 9 7 0 (平日 午前9時～午後6時)

ご不明な点やご質問は、右のQRコードをスマートフォンで読み取り、下のURLに直接アクセスしてよくあるお問い合わせページのページをご覧ください。

<https://service.sugisai.com/hinode/faq/m/>

② 「メールを送信する」を押します

③ メール送信画面で、変更を行わず「登録完了」を送信します。

「仮登録完了のお知らせ」メールが届いたら、URLを選択して本登録サイトにアクセスします。

④ 利用規約をご確認いただき、
「メール配信に同意する」ボタンを押します。

⑤ 配信方法を選択して「次の画面に進む」ボタンを押します。

⑥ 日の出庫との間隔を選択し、
次の画面に進む ボタンを押します。

⑦ 日の内容を確認し、日の内容内容を選択する ボタンを押します。

⑧ 「ご登録ありがとうございました」と表示されたら登録は完了です。
別途、本登録完了のお知らせメールが配信されます。ご確認ください。

日頃から気象情報や河川の水位情報に注意しましょう。テレビ、ラジオ、新聞やインターネットなどから様々な情報を入手しましょう。また、市民の皆さんから市へも情報提供をお願いします。

日の出/生活安全安心線 電話 042-597-5011 ホームページ http://www.town.hinodeo.tokyo.jp/	国土交通省相模国道路事務所 ホームページ http://www.mtr.mlit.go.jp/sobu/ 防犯カメラ、防犯情報センター
気象庁天気予報電話サービス 電話 177 気象庁気象研究所の天気予報が聞けます ホームページ http://www.jma.go.jp/jma/	東京電力 ホームページ http://www.thunder.jp/eng/jp/ 雨量・雷情報提供がなされます
国土交通省防災情報提供センター ホームページ http://www.mlit.go.jp/saigai/ 降水量や地震の動きなどが知られます	J R東日本 ホームページ http://www.jr-east.co.jp/ 列車の運行状況が確認できます
東京都水災被災情報総合システム ホームページ http://www.kasen.suido.metro.tokyo.jp/ 被害情報について、水防団の水位や雨量などが知られます	西武バス ホームページ http://www.nishitokai.co.jp/ バスの運行状況が確認できます